

ふるさと発見！（小・中学生向け）

がくふ なかいずみ学府

〈 地区・世帯数・人口 〉 令和2年12月末現在

磐田中部小学校区	約 5,700 世帯	約 12,300 人
磐田西小学校区	約 3,400 世帯	約 7,600 人
合計	約 9,100 世帯	約 19,900 人

磐田中部小学校通学区：中泉一～四丁目、二之宮、二之宮東、大泉町、今之浦一～三丁目、鳥之瀬、中泉の一部、見付の一部、国府台の一部、豊島の一部、西貝塚の一部

磐田西小学校通学区：中泉の一部、国府台の一部、一言の一部、天龍の一部

磐田第一中学校、磐田中部小学校、磐田西小学校がある「なかいずみ学府」は、市役所やJR磐田駅がある磐田市の中心部です。商店や住宅がたくさんあります。

この地域は、奈良時代から遠江国のみやこ（遠江国府：現在の県庁所在地にあたる）として繁栄していました。「中泉」という地名は、南北朝時代の1334（建武元）年の文書に初めて出てきます。なかいずみ学府には、どんな歴史や文化があるのか調べてみましょう。



中泉は、室町時代以前は中市場村といわれていたんだよ。村の名前から、ここはむかしからモノが集まる場所だったことがわかるね。磐田駅前にある県指定文化財「善導寺の大クス」は、樹齢約700年。室町時代からずっと、中泉のまちの移り変わりを見てきた木なんだね。

● 2つの小学校と1つの中学校 ➡ ①（中泉、国府台）

2つの小学校は、元は1つの学校だった。

磐田中部小学校と磐田西小学校の前身は、1873（明治5）年4月21日に開校した中泉学校の男子校と女子校です。何回か校舎を移転し、1930（昭和5）年に中部小の場所が男子校、西小の場所が女子校となりました。1945年8月に2校とも現在のような地域別通学区での男女共学となり、1948年に現在の学校名になりました。

2校の始まりは、1869年に中泉奉行の前島密が西願寺につくった仮学校です。明治になり、かつて江戸幕府の役人だった士族たちが家族と一緒に中泉に移住してきました。その子どもたちのために学校をつくったのです。中泉奉行所の役人で、仮学校で算数の教師をしていた塚原重忠（1821～？）は、仮学校の後身の中泉学校で1892年まで長い間校長を務めました。磐田中部小学校には彼の功績をたたえる記念碑があります。

なぜ「第一」中学校なの？

磐田第一中学校は、戦後の新しい学校制度によって、1947（昭和22）年4月、当時の磐田町につくられた2つの中学校のうちのひとつです。磐田第二中学校は1951年に校名変更し、城山中学校になりました。

★3校の歴史や特色について調べるには

- 『百年の歩み 磐田市立磐田中部小学校』（中央）・『磐田ことはじめ1』（全館）・『磐田市史 通史編下』（全館）
- 『磐周教育50周年記念誌 繋ぐ～次の50年～』（中央） ・『静岡県歴史人物事典』（全館）
- 『磐周教育の三十八年』（全館） ☆各学校のホームページも見てみましょう

磐田市概略図



● 国分寺もあつたよ、代官所もあつたよ、中泉は地域の中心だったよ ➡ ②

奈良時代から遠江国府として栄えた中泉のようすは、遠江国分寺跡や府八幡宮などから知ることができます。また、いくつかの古墳、御殿二之宮遺跡の出土品などから、このあたりにはもっと古い時代から人が住んでいたことがわかります。江戸時代初期には徳川家康の御殿がありました。その後、そこは江戸時代をとおして中泉代官所として、遠江・三河（現・愛知県東部）地方の天領（幕府の直轄領）を支配する拠点となり、たくさんの役人が勤めていました。代官所は、明治になり静岡藩の中泉奉行所となりました。磐田駅南口には、「仮学校」や生活に困った人のための支援施設「中泉救院」をつくった中泉奉行前島密（1835-1919）の銅像があります。

★むかしの中泉について調べるには

- ・『いわたふるさと散歩 中泉編 磐田文化財マップ』（中央・福田・竜洋）※電子図書館でも見られます
- ・『遠江国分寺 もっと知りたくなる、学びたくなる「遠江国分寺読本」』（全館）
- ・『磐田ものがたり』（全館） ・『府八幡宮ものがたり』（全館）



● 今の駅舎は何代目？ JR磐田駅 ➡ ③（中泉）

1889（明治22）年に開業した中泉駅（現・磐田駅）。当時の新聞では「乗客や扱う荷物が東海道線の駅の中でいちばん多い」と書かれています。電子図書館には、明治から大正にかけての鉄道旅行ガイドブック『鉄道作業局線路案内』、『鉄道沿線遊覧地案内』があります。これらの本で中泉駅の項目を読んでみましょう。

大正時代に建てられた駅舎は、中央図書館の2階に模型があります。図書館の本で、写真も探してみましょう。1957（昭和32）年に建てられた駅舎は、2000（平成13）年に現在の駅舎に建て替えられ、南口ができました。

むかし、磐田駅からは「中泉軌道」（明治後期）と「光明電気鉄道」（昭和初期）という鉄道も発着していました。廃線跡を探してみませんか。

★磐田駅や鉄道について調べるには

- ・『磐田の記録写真集』（中央・福田・竜洋）
- ・『磐田・袋井・森今昔写真集』（全館）
- ・『光明電気鉄道 廃線跡を訪ねて』（中央・竜洋・豊岡）
- ・『静岡県鉄道軌道史』（中央・竜洋・豊岡）
- ・『磐田ものがたり』（全館）

中泉に、だいだらぼっちがいた!?

「手長さま」といわれる田中神社（石原町）は、江戸時代中期まで田中の森（御殿）にありました。むかし、その松の根元から、石棺が見つかり、中には、とても手が長い人の骨が入っていました。これは、だいだらぼっちの骨なのでは？と、人々はうわさをしたそうです。

磐田原台地には、だいだらぼっちの足跡だといわれる場所もいくつかあつたそうです。

『磐田ものがたり』、『磐田昔がたり』を読んで、調べてみよう

● 磐田駅前はこんなに変わった！ ➡ ④（中泉）

現在ジュビロードと呼ばれている磐田駅北口の通りは、むかしはアーケードがあつてたくさんのお店が連なっていました。昭和30年代から50年代（1955年～1975年ころ）にかけては映画館もありました。平成初期から駅の南口、北口の整備事業が進み、道も広くなり、大クスを中心とした駅前広場が2016（平成28）年3月にできて、駅周辺の風景は一変しました。

おうちの方々にむかしのようすを聞いてみましょう。また、図書館の本でむかしの写真を見たり、古い住宅地図を見ると、どんなお店があつたのか当時の街並みがわかります。調べてみましょう。

★むかしの磐田駅前について調べるには

- ・『写真集 2000年のいわた』（中央） ・『磐田の記録写真集』（中央・福田・竜洋）
- ・『磐田駅前商店街 駅前再開発に関連して』（中央・福田・竜洋）・『磐田・袋井・森今昔写真集』（全館）
- ・『住宅地図（磐田市）』（中央）※図書館にある一番古い住宅地図は、1957（昭和32）年のものです